

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4678100084
法人名	社会福祉法人 幸風会
事業所名	グループホーム あじさい
訪問調査日	平成22年3月30日
評価確定日	平成22年5月7日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4678100084
法人名	社会福祉法人 幸風会
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	鹿児島県熊毛郡南種子町中之上1702番地4 (電話) 0997 - 26 - 2345

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年3月30日	訪問調査日	平成22年5月7日

## 【情報提供票より】(22年3月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	3	名	要介護4	2	名	
	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	84.2 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池村医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは同一社会福祉法人の広い敷地内に特別養護老人ホームと併設し開園している。ホームの玄関スロープには季節の花が植えられ明るい雰囲気で見守る者を迎えている。ホールに入ると利用者と職員の共同針仕事による心とむパッチワークやタペストリーがいたるところに飾られ、ホームが家族的に運営されていることが伺える。個々の居室に洗面所・トイレを備えていることもこのホームの特長といえる。管理者・職員は利用者とお互いにいたわり・思いやり、また信頼できる関係を作りあげている。運営者・管理者などの努力によってますます高品質のサービス提供が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組みとして、ホ - ムの現状及び活動報告をしている。内容は議事録としてまとめ、管理し共有化する取り組みも期待される。金銭管理は利用者個々に出納帳に記載し、家族の面会時に確認印をもらったり、また遠方の家族には預かり金通帳写しで定期的に知らせることが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価のためのミーティングをもって管理者・職員全員で取り組んでいる。マンネリになりがちな職務を、気付き、振り返りを行う年1回評価する機会として正確に捉えている。今後の自己評価時には運営者にも参加を求め、評価項目を話し合う中で具体的な改善に取り組まれることに期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>メンバー構成も行政職員、家族代表、利用者など幅広い人の参加を得られるように取り組みがされている。ホ - ムの現状及び活動を報告している。内容は議事録としてまとめ、管理し共有化する取り組みも期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者、家族からの提案・意見に、職員間でミーティングなどで話し合い、記録し、検討、改善に向けて取り組んでいる。会議などでも職員が意見や気付いたことを言い出しやすい雰囲気作りに配慮している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の学校の発表会や運動会に積極的に参加、郷土芸能の観覧にも出かけている。文化祭へ作品の展示や販売も行っている。地域の方々も慰問に来ていただいたり交流も行っている。また中学生の職場体験も受け入れている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から職員間で話し合い、わかりやすい言葉で一人一人を大切に、住み慣れた地域での暮らしや、生活歴を活かせる支援を掲げた理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やパンフレットにも明示し、引き継ぎ・ミーティング、職員間で理念をもとに、具体的なケアについて認識の統一を図っている。また身近な言葉として「失敗させない、恥をかかせない、不安を煽らない、」を毎日のチェック項目として話し合いの中で加えている。ホーム便りの中で理念を具体的に家族に知らせることも検討している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の学校の発表会や運動会に積極的に参加、郷土芸能の観覧にも出かけている。文化祭へ作品の展示や販売も行っている。地域の方々も慰問に来ていただいたり交流も行っている。また中学生の職場体験も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価のためのミーティングをもって管理者・職員全員で取り組んでいる。マンネリになりがちな職務を、気付き、振り返りを行う年1回評価する機会として正確に捉えている。		今後の自己評価時には運営者にも参加を求め、評価項目を話し合う中で具体的な改善に取り組まれることに期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	メンバー構成も行政職員、家族代表、利用者など幅広い人の参加を得られるように取り組みがされている。ホームの現状及び活動を報告している。内容は議事録としてまとめ、管理し共有化する取り組みも期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口に出向いたり、また、市の職員も運営推進会議以外にもホームを訪れている。ケアなど課題解決のために相談をしたり、助言を受けたり、日頃から連携を取りながらサービスを進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの家族便りに利用者の近況をそえて郵送している。面会時や電話連絡などでも現状報告を行っている。		金銭管理は利用者個々出納帳に記載し、家族の面会時に確認印をもらったり、また遠方の家族には預かり金通帳写しで定期的に知らせることが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの提案・意見に、職員間でミーティングなどで話し合い、記録し、検討、改善に向けて取り組んでいる。会議などでも職員が意見や気付いたことを言い出しやすい雰囲気作りに配慮している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はなじみの関係の重要性を理解し、利用者、家族との信頼関係を築くために、なじみの職員が対応できるように配慮している。ホーム便りにも信頼関係を損なわないように分かりやすい言葉で利用者各々の近況を報告している。新職員採用にあたっては見習い期間中に信頼関係が築けるよう配慮し、異動時は引継ぎ期間を十分とって利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は事業所内の研修や外部研修に交替で参加し、研修後は報告を行ない共有できている。当地区の協議会の研修にも積極的に参加し、資格手当などにも反映させ、職員の知識、技術の向上に努めている。研修報告書はいつでも閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのケアマネ研修会などに定期的に参加し、ネットワークを作り、意見交換や情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族にホームの雰囲気になじんでもらい、利用者の身体的、精神的状態に合わせて利用を開始できるよう配慮している。本人・家族が見学されたり、ショートステイで利用後入所となるように努めている。デイサービス利用者であった方も多く、お互い顔なじみであり安心してスムーズな入居が来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を職員全員共有し、毎日の暮らしの中で一緒に考えたり、教えてもらったりの支えあう関係を築いている。利用者のペースに合わせて利用者の得意な部分を生かして頂けるよう工夫し、声掛けに配慮している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや要望の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報、表情、体動などから読み取り、職員間で申し送りやミーティング時に本人本位に検討する機会を持っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で利用者、家族の思いや意見を聴いて記録し、またサービス担当者会議を開き、職員間で様子や気付きなど確認し、本人・家族・職員の意見を取り入れて利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期的な見直しと最新の情報や気づき、また家族や本人の要望を取り入れながら、検討・見直しをしている。状態に変化があった場合は、その都度、検討・見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族やそれぞれの希望や要望に応じて、病院受診の介助や通院介助などを柔軟に支援している。また墓参りなど家族、利用者の希望に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。必要に応じて適切な医療が受けられるよう、医療機関との連携もとっている。毎週1回の往診も受け入れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について家族へ説明、対応を確認している。早い段階から話し合いをもって全員で方針を共有している。急変した場合は、すぐ対応できるように医療機関とも連携を図り、対応できるようにしている。		家族と話し合い、利用者・家族が安心して終末期を過ごして頂けるように話し合った内容を記録に残し、家族が同意したことを確認できるように検討されたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に、言葉かけや対応について、かねがね職員会議などで意識づけ、配慮している。職員は個人情報保護に関する誓約書を提出している。職員の意識向上を図り、個人ファイルなどは書棚に入れることが出来るよう検討している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をベースにある程度規則正しい生活、張りのある生活を支援しているが、利用者の希望に応じることはもちろん、一人ひとりの体調など考慮し、その時々本人の気持ちを尊重して柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にとってきた野菜や山菜の調理方法を相談したり、個々の力を活かしながら野菜の下ごしらえ、片付けなど職員とともに行っている。食事を生活の中で一番の楽しみとして捉え全員で食卓を囲み、笑顔の食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。入浴を拒む利用者には時間を経て誘ったり、職員をかえて声かけしたりして気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴順番やお湯加減、垢すりの硬さなど配慮し、気持ちよく入浴できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りの得意な方、縫い物の好きな方など、その方の生活歴や出来ることを活かした暮らしを心がけ、本人と話し合いながら楽しく過ごせるように支援している。縫い物の好きな方が多く、もてる力を発揮できるよう、メリハリのある日常生活が送れるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じ、墓参りや兄弟の家、買い物などに出掛けたり、天候の良い時は、散歩や山菜取りに出掛けたりする。利用者の希望、体調を考慮しながら散歩や、季節に応じ、花見やドライブなどにお弁当持参で出かけ、閉じこもらない支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由に入出入りができる状態になっている。見守りを重視し、外出時にはさりげなく声かけし、一緒について行くなど安全面に配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の消防団の協力で、夜間を含め避難訓練を年3回行っている。スプリンクラーも設置し、火災受信機、火災通報装置なども誰でも使いこなせるよう訓練している。事故発生時の非常呼集連絡網も有り、地域にはサイレンを使い周知するようにしている。災害に備えて、非常食などの備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を参考に、栄養バランスに気をつけ、見た目にも食欲が出るように工夫し、食事摂取量は個別に記録しチェックしている。水分補給にも見守り、声かけしながら注意を払い、一人ひとりの状態に合わせた援助をしている。ミキサー食・きざみ食の対応もできるが、今のところいない。お茶などとりみをつける場合もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂のテーブルに季節の花を飾るなど居心地のよい空間作りに努めている。リビングにはテレビ、ソファがあり、利用者が好みの場所で、ゆったりと思いに過ごせるように工夫し、職員も心穏やかに見守っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室それぞれがトイレ・洗面所付きで、利用者の能力に合わせてベッドの位置を工夫し、居心地良く過ごせるように、写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、利用者の生活暦や個性が感じ取れる居室になっている。各居室にはブザーがあり、用事がある時は速やかに対応できるようにしている。		